

第十一部 イスラエルの贖いと回復

イザヤ 40 章～66 章

□ 第十一部のアウトライン

- | | |
|------------------------|----------------|
| A) プロローグ | 40 章 1～11 節 |
| B) イスラエルの苦難は終わる | 40 章 12 節～48 章 |
| C) イスラエルの罪は償われている | 49 章～57 章 |
| D) イスラエルは二倍のものを受けている | 58 章～66 章 |

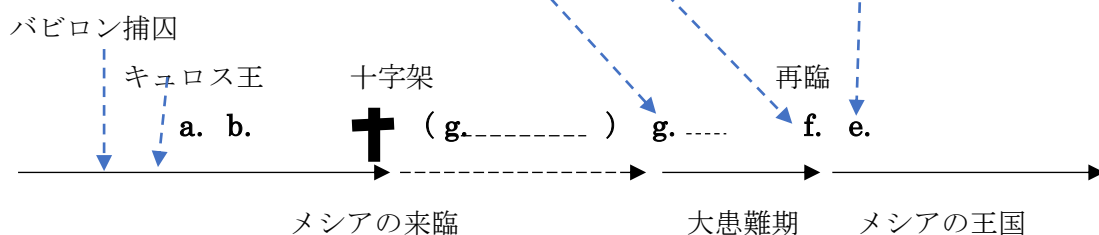
□ 「B) イスラエルの苦難は終わる」のアウトライン (イザヤ 40 章 12 節～48 章)

1. 主の偉大なること、比べるものなし (40 章 12 節～31 節)
2. 偶像を裁く (41 章)
3. 主のしもべ (42 章)
4. バビロンからの解放 (43 章 1 節～44 章 5 節)
5. 偶像崇拜の愚かさ (44 章 6 節～23 節)
6. **バビロン捕囚からキュロス王による解放 (44 章 24 節～45 章 25 節)**
7. バビロンとその偶像たちに対するさばき (46 章 1 節～47 章 15 節)
8. 預言を受けるイスラエル民族への主の要求 (48 章)

□ 「6. バビロン捕囚からキュロス王による解放」のアウトライン (イザヤ 44 章 24 節～45 章 25 節)

- a. やがて登場する王に関する告知 (44 章 24～28 節)
- b. キュロス王に向けてのメッセージ (45 章 1～7 節)
- c. 賛美の歌 (8 節)
- d. そんなことが起こるものかという声に対する反論 (9～13 節)
- e. 異邦人がイスラエルに従属するようになるという預言 (14～17 節)
- f. イスラエルの民族的救いの預言 (18～21 節)
- g. 異邦人の救いの預言 (22～25 節)

時間軸に置くと・・・



B) イスラエルの苦難は終わる

6. バビロン捕囚からキュロス王による解放（44 章 24 節～45 章 25 節）

a. やがて登場する王に関する告知（44 章 24～28 節）

24～28 節は、ヘブル語聖書の原文では、ひとつの文。24 節 b から 28 節の中で、神の働き 9 つが語られる。

24 節 a あなた（イスラエル）を贖い、あなたを母の胎内で形造った方、主はこう言われる。

24 b ～28 節

- ① 「わたしは万物を造った主である。
 - ② わたしはひとりで天を延べ広げ、
 - ③ ただ、わたしだけで、地を押し広げた。
 - ④ わたしは易者のしるしを打ち壊し、占い師を狂わせ、
 - ⑤ 知恵ある者（バビロンの王の顧問たち）を退けて、その知識を愚かにする。
 - ⑥ 主のしもべ（預言者イザヤ）のことばを成就させ、使者たち（イザヤ以外の預言者たち）の計画を成し遂げさせる。
 - ⑦ エルサレムについては『人が住むようになる』と言い、ユダの町々については『町々は再建され、その廃墟はわたしが復興させる』と言う。
 - ⑧ 淵については『干上がれ。わたしはおまえの豊かな流れを涸らす』と言う。（出エジプトのときに紅海が干上がったように、バビロンからの帰還でも河川や海に進路を妨げられないことがない）
 - ⑨ キュロスについては『彼はわたしの牧者。わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。エルサレムについては『再建される。神殿はその基が据えられる』と言う。」
- キュロス・・・ペルシアの王。バビロニアを倒してイスラエルをバビロン捕囚から解放し、帰還する民にエルサレムの神殿を再建するように命じた。イザヤの預言とキュロスの登場の間には、150 年の隔たりがあるにもかかわらず、キュロスという個人名までも明確に預言された。

b. キュロス王に向けてのメッセージ (45 章 1～7 節)

1 節 a 主は、油注がれた者キュロスについて こう言われる。

- 油注がれた者・・・メシア。ヘブル語聖書の原文を正確に訳すと「わたしのメシア」
- なぜ、キュロスをメシアと呼ぶのか・・・キュロスは、イスラエルをバビロン捕囚から解放する、身体的な解放者である。解放者であるという点ではイエスのひな型となるから、メシアと呼ばれる。もちろん、イエスは、キュロスとは比較にならないほど偉大な、霊的な解放者である。異邦人で信者でもないキュロスを神が用いる理由は、このあとの 3b～7 節で語られる。

1b～3 節 a 「わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、彼の前に扉を開いて、その門を閉じさせないようにする。わたしはあなたの前を進み、険しい地を平らにし、青銅の扉を打ち砕き、鉄のかんぬきをへし折る。わたしは秘められている財宝と、ひそかなところに隠された宝をあなたに与える。

- 神がキュロスのためにする 3 つの働き・・・①キュロスの進撃を容易にする、②鉄のかんぬきを備えた青銅の扉を 100 カ所も有するバビロンを陥落させる、③リディアが地下トンネルなどに蓄え隠していた財宝をキュロスのものとさせる。

神がキュロスを用いる理由

3b～7 節 それは、わたしが主であり、あなた（キュロス）の名を呼ぶ者、イスラエルの神であることを あなたが知るためだ。わたしのしもべヤコブのため、わたしが選んだイスラエルのために、わたしはあなたを、あなたの名で呼ぶ。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに肩書きを与える。

わたしが主である。ほかにはいない。わたしのほかには神はいない。あなたはわたしを知らないが、わたしはあなたに力を帯びさせる。

それは、日の昇る方からも西からも、わたしのほかには、だれもないことを、人々が知るためだ。わたしが主である。ほかにはいない。

わたしは光を造り出し、闇を創造し、平和をつくり、わざわいを創造する。わたしは主、これらすべてを行う者。

- あなたはわたしを知らない・・・キュロスは主を知らない＝信者ではない

c. 賛美の歌 (8 節)

預言の途中で、預言者イザヤが主を賛美する (同様のパターンは、42 : 10～13、44 : 23、45 : 15、48 : 20～21、49 : 13、52 : 7～10)

8 節 天よ、上から滴らせよ。雲よ、義を降らせよ。地よ、開け。天地が救いを実らせるように。正義とともに芽生えさせよ。わたしは主。わたしがこれを創造した。」

d. そんなことが起こるものかという声に対する反論（9～13 節）

異邦人で偶像崇拜の民の王を神が用いるなどあり得ない、という声に対する反論

9～10 節 ああ、自分を形造った方に抗議する者よ。陶器は土の器の一つにすぎないのに、粘土が自分を形造る者に言うだろうか。「何を作るのか」とか「あなたが作った物には手がついていない」と。わざわざ。自分の父に「なぜ子を生むのか」と言い、母に「なぜ産みの苦しみをするのか」と言う者。

- 言う者・・・まだ胎内にいる胎児

11～13 節 イスラエルの聖なる方、これを形造った方、主はこう言われる。

「これから起こることを、わたしに尋ねよ。わたしの子たちについて、またわたしの手のわざについて、あなたはわたしに命じるのか。このわたしが地を造り、その上に人間を創造した。このわたしが手で天を延べ広げ、その万象に命じたのだ。このわたしが義をもって彼を奮い立たせ、彼の道をことごとく平らにする。彼がわたしの都を建て直し、わたしの捕囚の民を解放する。代価を払ってでもなく、賄賂によってでもない。——万軍の主は言われる。」

- 義をもって・・・キュロス個人は義人ではない。しかし、神の計画は正しく、義である。その計画の中で、神がキュロスを用いる。

e. 異邦人がイスラエルに従属するようになるという預言（14～17 節）

14 節 主はこう言われる。「エジプトの産物とクシュの商品、それに背の高いセバ人も、あなたのところにやって来て、あなたのものとなる。彼らはあなたの後に従い、鎖につながれてやって来る。そして、あなたにひれ伏して、あなたに祈る。『神はただあなたのところにだけおられ、ほかにはなく、ほかに神々はいない』と。」

- エジプトが従うようになるとの預言は、すでに 19 章にあった。また、エチオピアについては、18 章と 20 章にあった。彼らが従うようになるのは、軍事力で押さえつけられるからではなく、イスラエルの神を真の神として認めるからである。

イザヤの賛美

15 節 イスラエルの神、救い主よ。まことに、あなたはご自分を隠す神。

- ご自分を隠す神・・・何事も秘密にする神という意味ではない。神の知恵は深く、人間には知り尽くすことはできないという意味（参照 ロマ 11：33～36）

16～17 節 偶像を細工する者どもはみな 恥を見、辱めを受ける。彼らはともに、辱めのうちに去る。イスラエルは主によって救われ、永遠の救いに入れられる。あなたがたは恥を見ることも辱めを受けることもない。永遠に至るまで。

f. イスラエルの民族的救いの預言（18～21 節）

18 節 天を創造した方、すなわち神、地を形造り、これを仕上げた方、これを堅く立てた方、これを茫漠としたものとして創造せず、住む所として形造った方、まことに、この主が言われる。「わたしは主。ほかにはいない。

- これを茫漠としたものとして創造せず・・・創世記 1：1「はじめに神が天と地を創造された」、このとき神は地を茫漠としたものとして創造しなかった。創世記 1：2「地は茫漠として何もなく」。1 節と 2 節の間で、地を茫漠とさせるような出来事があり、神のさばきとして大水（海）が地をおおうような状態になった。その出来事とは、エゼキエル 28 章が記すサタンの登場。

19 節 わたしは隠れたところ、闇の地の場所で、語らなかつた。茫漠としたところで、ヤコブの子孫に『わたしを尋ね求めよ』とは言わなかつた。わたしは主。正義を語り、公正を告げる者。

- 聖書の神は、「語り、告げる」お方である。

20～21 節 諸国からの逃亡者たちよ。集まって来て、ともに近づけ。彼ら（諸国民）は自分たちの木の偶像を担ぐ者、救えもしない神に祈る者たちで、知識がない。

告げよ。証拠を出せ。ともに相談せよ。

だれが、これを昔から聞かせ、以前からこれを告げたのか。

わたし、主ではなかつたか。わたしのほかに神はいない。正しい神、救い主、わたしをおいて、ほかにはいない。

- 諸国からの逃亡者たち・・・世界離散していたイスラエル。偶像崇拜の国々から逃れて来た者たち。

g. 異邦人の救いの預言（22～25 節）

22 節 地の果てのすべての者よ。わたしを仰ぎ見て救われよ。わたしが神だ。ほかにはいない。

- 仰ぎ見て・・・ヘブル語の意味は、単に見るだけではなく、向きを変えるという意味も含む。偶像に向かうのではなく、聖書の真の神の方に向きを変えよ。

23 節 わたしは自分にかけて誓う。ことばは、義のうちにわたしの口から出て、決して戻ることはない。すべての膝はわたしに向かってかがめられ、すべての舌は誓い、

- すべての膝はわたしに向かってかがめられ・・・すべての異邦人が救われるということではない。今、神を仰ぎ見て救われて膝をかがめるか、そうでないなら、あとで神のさばきの場に立ち、膝をかがめなければならない。結果として、すべての異邦人が神に向かって膝をかがめることになる。

24 節 わたしについて、『ただ主にだけ、正義と力がある』と言う。主に向かっていきり立つ者はみな、主のもとに来て恥を見る。

- これは、異邦人、特に神に激しく反抗した者たちに対する、神のさばきの座での様子

25 節 イスラエルの子孫はみな 主によって義とされ、主を誇りとする。」

- 最後に再び、イスラエルの救いに預言がもどる。イスラエルは民族的救いを受け、神の栄光がメシアの王国の新しいエルサレムの神殿の中で輝くであろう。